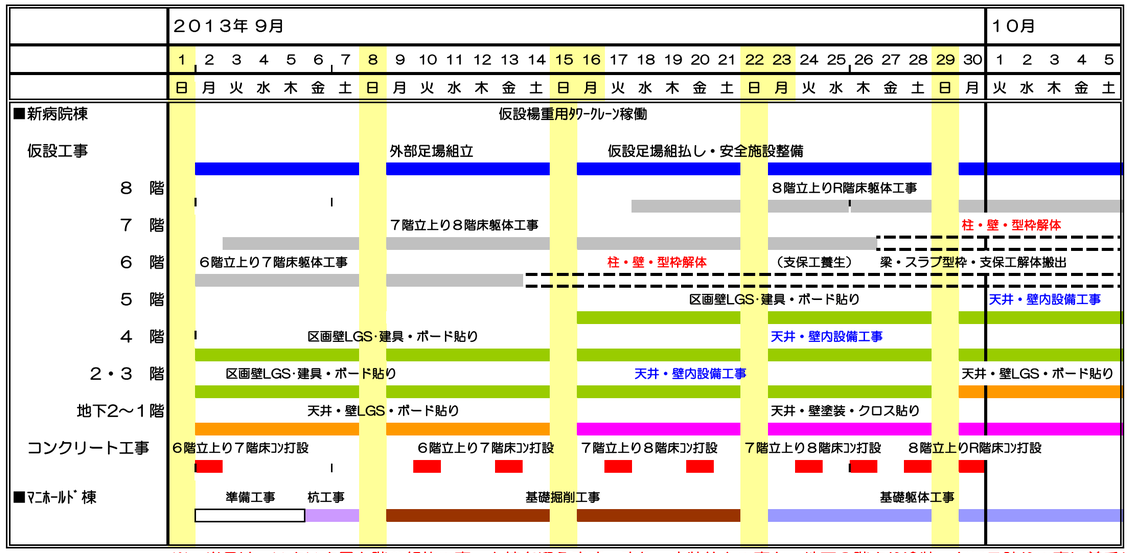
工事の状況（平成25年8・9月の予定）

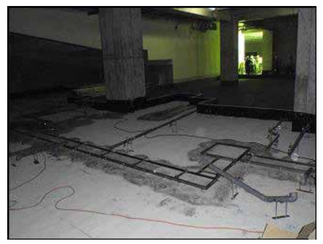
2013年 9月工事予定



※　当月は、いよいよ最上階の躯体工事、上棟を迎えます。また、内装仕上工事も、地下２階より塗装、クロス貼り工事に着手します。
ますます工事車輌の出入りが激しくなりますが、安全第一で進めていきますのでご理解・ご協力の程お願い致します。

８月の工事写真・ダイジェスト

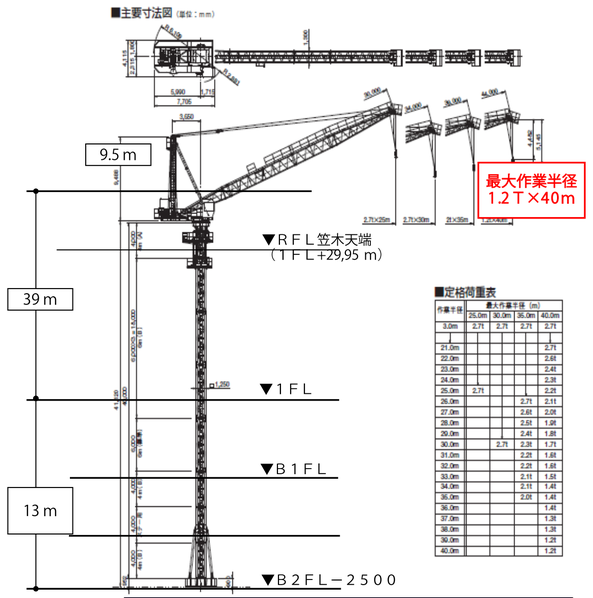
外装仕上げ工事状況（低層部）



地下２階機械室シャッター取付状況

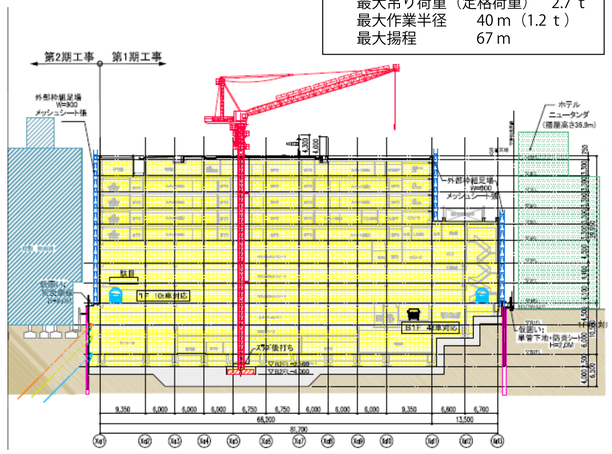
長崎さるく
「ながさき」を歩こう

今月は、先月から現場登場し今後、現場で大活躍する
”タワークレーン”ついて説明します。



タワークレーン（OTS-120NⅡ）

タワークレーンの性能について
クレーン重量　120 t
最大吊り荷重（定格荷重）　2.7 t
最大作業半径　40 m（1.2 t）
最大揚程　67 m



新病院棟の建物断面図
建物の最高高さ30mより登り上がります

タワークレーンの特徴・仕組み

1．タワークレーンの特徴

重い物を吊り上げたり、移動させたりするクレーンの中で、高層ビルや大型建物の建設に欠かせないのがタワークレーンです。移動式のクレーンとは異なり、建物の敷地が狭く重機等の設置スペースのない建物の建設に適しています。
移動式クレーン等の様に、入退場の経路や待機場所等を考慮せず容易に長時間の設置に適しています。タワークレーンは、作業が終了すれば解体し、次の建設現場に移動して再び利用します。

2．タワークレーンのクライミング

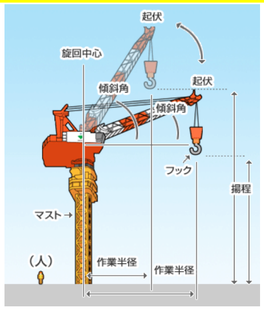
タワークレーンは高い建物をつくるために、自らよじ登ります。
これを「クライミング」といい、２種類あります。
「フロアークライミング」と「マストクライミング」です。
当現場では、「マストクライミング」方式を採用しています。

フロアークライミング

鉄骨造の超高層ビルで使用するタワークレーンは、通常この方式を採用します。クレーンを支える台座ごと建物をよじ登っていく方式です。作業半径を有効に活用できる為、比較的小さなクレーンで効率よく作業ができます。

マストクライミング

鉄筋コンクリート造の超高層マンションやビルは、一般的にこの方式で建てられます。クレーンの台座は最初に設置した場所から動かず、クレーンを支えるマスト（支柱）を自ら上部に継ぎ足し、その伸びた部分をクレーン部分が登っていきます。
建物とは別々に設置されますので、組立・解体が比較的容易にできます。



3．タワークレーンの仕組み

吊り能力

吊り能力とは、クレーンに負荷をかけられる最大の荷重の事で、ジブ（腕）の角度（傾斜度）で決まります。吊り荷の位置が遠くなるとジブをより倒す為吊り能力が低くなります。重い荷を吊り上げる場合には、吊り荷を旋回中心に近づけます。

揚程（ようてい）

地上からマスト最上端までの高さの距離の事をいいます。地下部分にフックが下がる場合はこの部分も加えます。現在の標準的なタワークレーンの揚程は最大３００ｍでしたが、東京スカイツリーの建設には最大揚程４２０ｍのタワークレーンが使用されていました。

作業半径

クレーンの旋回中心から、フックなどの吊り具の先端までの距離を水平面に沿って測定した距離の事。

大成・西海・三基・松栄　特定建設工事共同企業体
お問い合わせ　TEL　095-895-7001